

2026 年度

国 語

最初に、以下の^{ちゅういじこう}注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は^{かんとくしや}監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 友のケツパクを証明する。 ② 父はハクガクな人だ。 ③ ロウホウがもたらされた。
④ 神は人間をソウゾウした。 ⑤ 説明をホソクする。 ⑥ イサんで試合にのぞむ。

問二 次の中から意味が似ていることばを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、永久 イ、永年 ウ、永住 エ、永遠 オ、永眠

問三 次の□の中のひらがなを漢字にしたとき、その漢字の部首名をひらがなで答えなさい。

会員 □とう 録をする。

問四 次の文の空らん適切な漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

困っている人を助けるため、医師は□奔□走した。

問五 次の文はことわざである。()に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

石()をたたいて渡る

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「那須くん。ちょっと遅いんじゃない？ 陸上部でしょ？ もっとがんばってー」

田所が清彦にちよつかいを出し始めたのは、ウォームアップのために五十メートルを流している最中だ。

伊澄の感覚からすると、走行中のランナーに集中を乱すような声をかけるのは完全にアウトだ。だけど今は競技会ではなく、誰もがほどほどに手を抜いている体育の授業で、注意すべきかどうか判断がつかなかった。清彦も文句を言うでもなく、困ったような笑みを浮かべるだけだったから、その場はそれで終わった。

次は五十メートルのタイム計測が始まった時だ。

「えー、那須くん、7秒台？ 俺より遅いじゃん。しつかりして」

タイムは出席番号順に二人ずつ並走する形で計測される。走り切った清彦のタイムをストップウォッチを手にした体育教師が記録係に大声で告げると、ゴール前で伊澄たちとたむろしていた田所が声をかけた。ほかの生徒にも確実に聞こえる大きさだった。一瞬傷ついた表情を見せた清彦は、すぐに恥ずかしそうな笑顔になった。なんで笑うんだ、と伊澄は苛立った。でも清彦が笑った以上、田所のやっていることは「応援」みたいな扱いになる。田所は清彦に近づいていくと、自分より背の低いクラスメイトの頭を乱暴になでた。

「那須くん、俺の中一の弟とサイズ似てるから気になっちゃうんだよなあ。次の百メートルはがんばろうね。那須くん陸上部なんだから、俺より遅いんじゃないよ」

「いや田所、おまえより速いやつって、陸上部関係なくほとんどいないから」

謙信が、たしなめることはせず、でも田所のガス抜きをするみたい持ち上げた。田所は6秒7を出している。男子は7秒台の真ん中から後半がほとんどの中、確かに目立つタイムだ。まんざらでもなさそうな田所は、清彦の細い首に自分の太い腕をまわした。

「那須くん、百メートルの順番来るまで特訓してあげよっか？ ほら、あっち行くべ」

「や、おれはいいよ、悪いし……」

「だめだめ、今のままじゃ恥ずかしいよ？ 諦めないでがんばれ」

清彦を鼓舞しているように見せかけて正反対のことをやっている田所の気持ちは、伊澄にはわからない。もしかしたら清彦を嫌う明確な理由があるのかもしれないし、清彦個人に思うところがあるわけではなく、誰かをそうして下に扱うことを何らかの理由が必要としているのかもしれない。それらは全部が推測で、はっきりと判断できることは何もない。人間はあまりにも複雑で不可解だ。自分にとっては気にもならない些細なことが、相手にとっては心臓を止めるくらいの痛手になることもある。笑っているからわかり合えているのだと思っていたのに、相手が自分を呪っていることもある。こんなわけのわからない生き物を、本当の意味で理解することなんてできないんだろう。自分に判断できるものがあるとしたら、それは自分自身の思いだけで。

だからここでひとつ判断を下す。

もう、何か言つて面倒なことになるよりも、黙つて見ているほうが耐えがたい。

「そいつは長距離走者なんだよ」

清彦を特訓に連れていこうとしていた田所は、いきなり声を投げつけられ、1した顔でふり向いた。謙信も「え、伊澄？」と目をまるくしている。もとから愛想のない声^{あゐそ}が輪をかけて鋭^{すずと}くなっているのはわかったが、伊澄は続けた。

「陸上部だったらみんな短距離も長距離もハードルも跳躍も投擲も、全部が得意つてわけじゃない。おまえだつて現代文は得意だけど古典はマジ意味不明つて、この前言つてただろ。それと同じだ。そいつは速く走ることが得意じゃないかもしれない。けど代わりに、おまえだつたら自転車に乗らないとバテる距離を自分の足で走り抜ける。だから五十メートルがおまえより遅くたつて恥ずかしくない。恥ずかしいのは、何も知らないのに知つた顔してバカにするやつの方だろ」

「は？ 何だよいきなり……」

「それと」

それ以上はやめておけ、と内なる自分の鋭い警告が聞こえたが、スピード狂で暴走族あがりの両親から受け継いだ血が「行つ

ちまえ」とアクセルを踏みこんだ。

「おまえ、そんなに言うほど速くないだろ」

田所の表情が、2凍りついた。「あ……」と謙信が顔を押しさえて変な声を出した。

「はあっ？ ならおまえはどうなんだよ。遅かっただろ、俺よりずっと」

「まあまあまあ！ 田所、落ち着いて。伊澄はほら、クールだから」

「おーい、何やってんだ？ 次！ 荒谷と上杉！ さっさと来い！」

体育教師が野太い声で呼びながら手を振っている。百メートルの計測が始まったのだ。「あ、俺ら行かないと！ 行くぞ伊澄！」と3したように駆け出そうとした謙信を、田所がジャージをつかんで引っ張り戻した。

「おまえ代われよ。俺、荒谷と走るから」

「ええー？ やめとけよ、別にそんなムキになるほどのことでもないじゃん？ 伊澄もほら、謝つとけつて。今のはおまえが言はずぎだよ」

「逃げるなよ」

懸命に間を取り持とうとする謙信を無視して凄む田所を、伊澄は黙って見返した。逃げるも何も、今からタイムを計らなければいけないから自分はスタート位置につく。そこに田所が来るというなら、それは田所の自由だ。

「あれ？ おまえ上杉じゃないよな？ 上杉どうした？」

「調子悪いみたいで、あとで走ります。俺が代わりにタイム計っていいですか。田所です」

「ああ、まあ、いいけど。そんな位置について」

体育教師の合図を受けて、白いライン前でクラウチングスタートの準備をする。肩幅に少し余裕をもたせたくらいに腕を広げ、煉瓦色のトラックに両手の指をつく。指先に、日光に温められたタータントラックの温度が伝わってくる。競技会ならスターティングブロックに両足をセットするが、体育の授業ではそんな立派なものを使わない。田所は右脚を前、左脚を後ろにして、左の膝をトラックにつけたが、伊澄はそれとは左右逆で構えた。

息を吐き、首と肩から力を抜く。横からトンと押されたらそのままごろりと寝転んでしまうくらいに。スタートを切る時、パワーはいらない。必要なのは、合図と同時にとび出す瞬時の反応、そのためのやわらかくリラックスした肉体だ。

「用意」

教師の合図で指をついたまま腰を高く上げて、体幹を前に傾けた。頭、首、背中がまっすぐ一直線になるように。一瞬、何やってるんだろいな、というのが頭をかすめたが、スタートのホイッスルが響き渡った瞬間、思考も音も全部が消えて足先がトラックを蹴った。

普段は存在すら忘れていた空気は、人間が走ろうとした瞬間、暴徒を押し戻す盾みたいに強固な壁となつて立ちほだかる。

身体を押し戻そうとする風に捕まらないよう、スタート地点からとび出した瞬間の頭を下げた姿勢のまま走る。力まず、でも矢のように全身で風を切り裂きながら、前へ、前へ。十メートル、二十メートル、じょじょに上体を起こしながら距離を重ねるごとにスピードに乗って、伊澄の場合、六十メートルを越えたところでトップスピードに達する。

その瞬間、自分を拒絶していたはずの風と自分自身が同化する。風は自分をはねつけるものではなく、自分が作り出すものに変わり、身体が軽くなる。どこまでも行ける。自分を縛るあらゆるものから解き放たれて自由になる。自分の肉体に眠る力がフルに使われる感覚、走るといふことの真髄のひとつを味わった瞬間、自分が生まれてきた意味を知る。この一瞬を味わうためだったんだという確信。そうだったのだ、かつては。

でも今の自分にはそんな瞬間は訪れない。最後まで中途半端に風の抵抗に捕まったままゴールラインを踏んだ。ぼんやりとした失意を感じたまま数メートルを流して走り、身体の向きを変えたところで、息を切らした田所の姿が目に入った。そうだ、一緒に走っていたんだ、^⑤と思い出す。田所は目を合わせないように下を向いて黙りこんでいたから、伊澄も何も言わずにすれ違った。

「おいおいおい、伊澄なんなの!? すげー速いじゃん!」

のろのろ歩いてスタート地点に戻ると、興奮ぎみの謙信が駆けよってきた。

「11秒1だってよ! てかほんとは11秒07で、もうちょいで10秒台! 今までのトップのタイムも12秒後半だよ、おまえダント

ッ！ 走り方、めっちゃくちゃきれいだった。伊澄、陸上とかやってた？」

謙信の声をぼんやり聞きながら、11秒07、と頭の中でくり返す。思っていたよりタイムが出た。でも記録会の電動計測と違って手動計測だから、たいして信用できる数字ではない。風向きが追い風だったのもかなり大きいだろう。

左膝をそつとさすってみるが、痛みはなかった。違和感もない。⑥ だけど達成感も爽快感もなく、気だるいむなしさだけが残っていた。「荒谷！」と体育教師が走ってきた。

「おまえ、部活は？ 陸上部入ってるのか？」

「帰宅部です」

「はあー!? もつたいないべ、その足で。それならおまえ、野球部来ないか？」

「俺、球技全般下手なんです。とくに野球はやったこともないんで」

「大丈夫だ、俺が一から教えてやる。はじめは代走だけでいいから——」

「部活は、もういいです。失礼します」

まだしゃべっている体育教師に頭を下げてきびすを返した。少し先に、4 立っている男子生徒がいた。清彦だった。

楽しみだね、とキラキラ目がかがやかせていたあの時とは違う、何をどう言えいいのかわからないという顔だ。

もう速くないだろ、俺は。

おまえの記憶の中きおくにいる、おまえが憧れた俺とは、今の俺はもう違うだろ。

もの言いたげなまなざしの清彦から目を逸らし、黙ってすれ違った。

（阿部暁子『カラフル』（集英社）より）

問一

1

4

に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、ほつと イ、にこつと ウ、きよとんと エ、ぼつんと オ、すうつと

問二

〰〰線部X〰Zの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X「たしなめる」

ア、遠慮えんりよする

イ、笑いものにする

ウ、注意する

エ、褒めほちぎる

Y「輪をかけて」

ア、落ち着いて

イ、強く意識して

ウ、腹が立って

エ、勢いを増して

Z「きびすを返した」

ア、周りを見回した

イ、後ろを向いた

ウ、不満を表した

エ、自分を責めた

問三

——線部①「傷ついた表情を見せた清彦」とあるが、このときの清彦のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、授業だからといって手を抜いてしまった自分に後悔している。
- 2、伊澄の前で思ったようなタイムを出すことができず落ち込んでいる。
- 3、たいした用事もないのに声をかけてくる田所にうんざりしている。
- 4、陸上部なのにタイムが遅かったことを指摘され悲しんでいる。

問四

——線部②「正反対のこと」とあるが、具体的にどういうことか。本文中のことばを用いて、三十五字以内で答えなさい。

問五

——線部③「人間はあまりにも複雑で不可解だ」とあるが、伊澄がこのように思うのはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分と相手は常に逆のことを考えているとわかっていないと、どちらも傷つくことがあるから。
- 2、相手の気持ちはわからないし、自分の考えていることも正しく相手に伝わるわけではないから。
- 3、自分のことも正しく理解できないのに、相手の考えていることなど理解できるわけがないから。
- 4、誰かを自分より下に置いていないと安心できない人もいることが、どうしても理解できないから。

問六 — 線部④「内なる自分の鋭い警告」とあるが、それはなにか。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号

で答えなさい。

- 1、不必要に人と対立することを避けようとする事。
- 2、きつい言い方になってしまふ自分を反省すること。
- 3、相手の悪いところばかりが目に入ってしまうこと。
- 4、相手は自分よりできない人だと思つて甘く見ること。

問七 — 線部⑤「田所は目を合わせないように下を向いて黙りこんでいた」とあるが、それはなぜか。その理由として適切な

ものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分も全然足が速くないのに、清彦を遅いと馬鹿にしていたことが申し訳なくなつたから。
- 2、思つていたよりうまく走ることが出来ず、タイムが伸びなかつたことが悔しかつたから。
- 3、大口をたたくことを繰り返してきた分、想像していた結果にならなくて恥ずかしかつたから。
- 4、謙信の言うことを聞かずに、伊澄の挑発に乗つてタイムを競つたことを後悔していたから。

問八 — 線部⑥「気だるいむなしさだけが残つていた」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一

つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分にはそのつもりはないのに、一方的に自分と競争しようとしている田所のが理解できないから。
- 2、売られた喧嘩を買う形で田所との勝負に本気を出したことが、自分らしくなかつたと反省しているから。
- 3、自分なりに良い走りができたと思つたが、思つていたよりもタイムが出なかつたことが残念だから。
- 4、自分の思い描いていたような走りをする事ができず、理想と現実の差を感じてしまい満足できないから。

問九 「伊澄」の人物像を説明した文として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、表向き冷めた印象を与えるが、実は正義感を持った友だち思いの人物。
- 2、曲がったことが嫌いで、いつも正しいことを言うので信頼されている人物。
- 3、陸上のが大好きで、どんなときでも陸上のことを優先してしまう人物。
- 4、後先考えずに行動してしまうが、本当は引っ込み思案で気が小さい人物。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(問題作成の都合上、本文の表記を一部改めた。)

昨今、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といった言葉や、「現代社会では価値観が多様化している」「価値観が違^{ちが}う人とは結局のところわかりあえない」といった言葉が流^る布^ふしています。このような、「人や文化によって価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣^{ゆうれつ}がつけられ^あれない」という考え方を相対主義^①といえます。「正しさは人それぞれ」ならまだしも、「絶対正しいことなんてない^b」とか、「何が正しいかなんて誰^{だれ}にも決められない」といったことさえ主張する人もけっこういます。こうしたことを主張する人たちは、おそらく多様な他者や他文化を尊重しようと思っているのでしょう。そういう善意はよいものではありませんが、はたして「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」という主張は、本当に多様な他者を尊重することにつながるのでしょうか。そもそも、「正しさ」を各人が勝手に決めてよいものなのか。それに、人間は本当にそれほど違っているのかも疑問です。

1 またたとえば、野球が好きなのとサッカーが好きなのは、スポーツのネタでは話が合わないかもしれませんが、好きなスポーツの話さえしなければ仲良くできるでしょう。

2 サッカーが好きなのは間違っていて、すべての人は野球が好きでなければならぬ、なんていうことはありません。

3 たとえば、訪ねることも難しい国の人たちがどのような価値観によって生活していても、自分には関係がありません。

4 たしかに、価値観の異なる人と接^{せつ}触^{しよく}することがなかったり、異なっているにもかかわらず両立できるような価値観の場合には、「正しさは人それぞれ」と言っているても大きな問題は生じません。

こうした場面では、「人それぞれ」「みんなちがってみんないい」でよいでしょう。しかし、世の中には、両立しない意見の中から、どうにかして一つに決めなければならない場合があります。

1 「日本の経済発展のためには原子力発電所が必ず「要だ」という意見と、「事故が起こった場合の被害^{ひがい}が大きすぎるので、原子力発電所は廃止^{はいし}すべきだ」という意見とは、両立しません。どちらの意見にもっともな点があるかもしれませんが、日本全体の方針を決めるときには、どちらか一つを選ばな

ればなりません。原子力発電所を維持するのであれば、廃止した場合のメリットは捨てなければなりません。逆もまたしかり。「みんなちがってみんないい」というわけにはいかないのです。

そんなときには、どうすればよいでしょうか。「価値観が違う人とはわかりあえない」のであれば、どうすればよいのでしょうか。

③ そうした場合、現実の世界では権力を持つ人の考えが通ってしまいます。本来、政治とは、意見や利害が対立したときに妥協点や合意点を見つけたためのはたらきなのですが、最近では、日本でもアメリカでもその他の国々でも、権力者が力任せに自分の考えを実行に移すことが増えています。批判に対してきちんと正面から答えず、単に自分の考えを何度も繰り返したり、論点をずらしてはぐらかしたり、権力を振りかざして脅したりします。

④ そうした態度を批判するつもりで「正しさは人それぞれだ」とか「みんなちがってみんないい」などと主張したら、権力者は大喜びでしょう。②、もしもさまざまな意見が「みんなちがってみんないい」のであれば、つまりさまざまな意見の正しさに差がないとするなら、選択は力任せに行うしかないからです。「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」というのであればなおさらです。決定は正しさにもとづいてではなく、人それぞれの主観的な「A」にもとづいて行うしかない。それに納得できない人とは話し合っても無駄だから権力で「B」するしかない。こういうことになってしまいます。

③、「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」といった主張は、多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主観によって力任せに切り捨てることを正当化することにつながってしまっているのです。これでは結局、「力こそが正義」という、困った世の中になってしまいます。それは、権力など持たない大多数の人々（おそらく、この本を読んでくれているみなさんの大部分）の意見が無視される社会です。

よくある答えは、「科学的に判断するべきだ」ということです。科学は、「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人は考えています。このように、さまざまな問題について「客観的で正しい答えがある」という考え方を、普遍主義といえます。探偵マンガの主人公風に言えば、「真実は一つ！」という考え方だといってもよいかもしれません。先ほどの相対主義と反対の意

味の言葉です。「価値観が多様化している」と主張する人たちでも、科学については普遍主義的な考えを持っている人が多いでしょう。^⑤「科学は人それぞれ」などという言葉はほとんど聞くことはありません。

そして実際、日本を含めてほとんどの国の政府は、政策を決めるにあたって科学者の意見を聞くための「C」や制度を持っています。日本であれば、各省庁の審議会（専門家の委員会）や日本学術会議などです。「日本の経済発展のために原子力発電所は必要なのか」「どれぐらいの確率で事故が起こるのか、事故が起こったらどれぐらいの被害が出るのか」といった問題について、科学者たちは「客観的で正しい答え」を教えてくださいそうに思えます。

4、実は科学は一枚岩ではないのです。科学者の中にも、さまざまな立場や説を取っている人がいます。そうした多数の科学者が論争する中で、「より正しいような答え」を決めていくのが科学なのです。それゆえ、「科学者であればほぼ全員が賛成している答え」ができあがるには時間がかかります。みなさんが中学や高校で習うニュートン物理学は、いまから三〇〇年以上も昔の十七世紀末に提唱されたものです。アインシュタインの相対性理論や量子力学は「現代物理学」と言われますが、提唱されたのは一〇〇年前（二〇世紀初頭）です。現在の物理学では、相対性理論と量子力学を統一する理論が探求されていますが、それについては合意がなされていません。^⑥合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです。

最先端の研究をしている科学者は、それぞれ自分が正しいと考える仮説を正当化するために、実験をしたり計算をしたりしています。つまり、科学者に「客観的で正しい答え」を聞いても、何十年前に合意が形成されて研究が終了したことについては教えてくれますが、まさしく今現在問題になっていることについては、「自分が正しいと考える答え」しか教えてくれないのです。^⑦ある意味では、「科学は人それぞれ」なのです。

（山口裕之『みんな違ってみんないい』のか？ 相対主義と普遍主義の問題』〈ちくまプリマー新書〉より）

問一

1 4

に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

- ア、つまり イ、それとも ウ、ところが エ、たとえば オ、なぜなら

問二

線部 a・b と同じ用法のものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「られ」

- ア、弟に好きなお菓子^{かし}を食べられる。
イ、期待に応えられるように頑張^{がんば}る。
ウ、社長がわざわざ会いに来られる。
エ、故郷の母のことが案じられる。

b 「ない」

- ア、そんなこと僕^{ぼく}にはとてもできない。
イ、私にとってつまらない映画だった。
ウ、この部屋は思ったより広くない。
エ、この文章はあまり意味がない。

問三

【A】～【C】に入る二字のことばを次の漢字を組み合わせてそれぞれ作りなさい。

制 力 強 信 限 関 過 会 念 機

問四 本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直後にくる五字をぬき出しなさい。

では、どうしたらよいのでしょうか。

問五 ———線部①「相対主義」とは何か。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、人それぞれ考え方が違うので、課題に対する答えを見つけ出そうとすることをあきらめてしまう姿勢。
- 2、誰かの意見が必ずしも正しいというわけではなく、一人ひとりが自分の考え方を優先しようとする姿勢。
- 3、一つの問題に対して複数の考え方が出てきてしまうので、その中から最もふさわしいものを探そうとする姿勢。
- 4、自分の考え方が正しいはずだと確信し、他人に対して無理矢理同意を求めようとしてしまう姿勢。

問六 ……線で囲まれた部分の1～4を正しい順序に並べかえ、番号で答えなさい。

問七 ———線部②「廃止した場合のメリット」とあるが、その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、原子力発電所を維持するか廃止するかで意見が分かれて、対立することがなくなるということ。
- 2、原子力発電所の事故に対する不安が減り、安心した生活が送れるので経済が発展するということ。
- 3、原子力発電所以外の発電方法を探ろうと研究が進むので、日本の技術力が向上するということ。
- 4、原子力発電所が制御不能になって周囲に深刻な影響をもたらす可能性が、なくなるということ。

問八 ———線部③「現実の世界では権力を持つ人の考えが通ってしまいます」とあるが、それはなぜか。その理由を本文中から

三十七字で探し、最初と最後の五字をぬき出しなさい。

問九 — 線部④「そうした態度」とあるが、その具体例として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、クラスの話し合いで嫌われたくないからと、みんなにいい顔をして全ての意見を取り入れようとする態度。
- 2、クラスの話し合いで相手の言っていることがすぐに理解できず、何度も同じことを聞き返してしまう態度。
- 3、クラスの話し合いで他の人の意見を聞かずに、自分の考えだけを正解として他人に押しつけるような態度。
- 4、クラスの話し合いで自分の意見が通らないことに腹を立てて、話し合い自体に参加しようとしなくなる態度。

問十 — 線部⑤「『科学は人それぞれ』などという言葉はほとんど聞くことがありません」とあるが、それはなぜか。その理由を「くから。」に続くように三十五字以内で答えなさい。

問十一 — 線部⑥「合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです」とあるが、この内容を言いかえたものとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、科学者達の間で意見が一致した問題については、今後役に立つことがないので、それ以上研究しなくてよい。
- 2、科学者達は自分の研究を優先することができるので、興味を持ってない問題については、それ以上研究しなくてよい。
- 3、解決に時間のかかる問題は、科学者達の研究が無駄になる可能性が高いので、それ以上研究しなくてよい。
- 4、ある問題に対して、多くの科学者達の間で客観的に正しい答えが出ているときは、それ以上研究しなくてよい。

問十二 — 線部⑦「科学は人それぞれ」とあるが、筆者の考える科学とはどのようなものか。それを説明している一文を本文中から探し、最初の五字をぬき出しなさい。

